

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2019年 第3週 (1/14-1/20) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	3週	2週	1週	52週
小児科	18	18	17	15
眼科	5	5	4	5
インフルエンザ*	28	28	27	24
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数  
下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 1/7-1/13 2週
		注意報	1/14-1/20	1/7-1/13	12/31-1/6	12/24-12/30	
			3週	2週	1週	52週	
小児科	RSウイルス感染症		0	1	0	4	25
	咽頭結膜熱		1	3	1	4	53
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	54	55	18	41	367
	感染性胃腸炎		136	202	53	153	1,269
	水痘		9	3	7	10	61
	手足口病		1	1	2	0	21
	伝染性紅斑	↓	22	28	8	17	182
	突発性発しん		8	11	5	5	50
	ヘルパンギーナ		1	0	0	0	5
	流行性耳下腺炎		1	0	0	0	3
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)	★★◎	1,525 54.46	937 33.46	211 7.81	226 9.42	8,718 41.12
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	2	3	2	34
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	3
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	1

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(15件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査等	梅毒	女性	10歳代	血清抗体の検出
結核	男性	50歳代	病原体等の検出	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	男性	70歳代	病原体の分離・同定	梅毒	女性	80歳代	血清抗体の検出
急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状等	百日咳	男性	10歳代	病原体の分離・同定等
侵襲性インフルエンザ菌感染症	男性	70歳代	病原体の分離・同定	百日咳	女性	10歳代	抗体の検出
				百日咳	女性	20歳代	抗体の検出
侵襲性肺炎球菌感染症	男性	60歳代	病原体の分離・同定	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
水痘(入院例)	男性	10歳未満	臨床診断	風しん	女性	30歳代	病原体遺伝子の検出

・第3週は、結核3件(7)、急性脳炎1件(2)、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(2)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(2)、

水痘(入院例)1件(2)、梅毒3件(3)、百日咳3件(5)、風しん2件(7)の報告があった。

※( )内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第3週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>前週より減少し3.00となったが、過去10年の同時期と比べると多い。

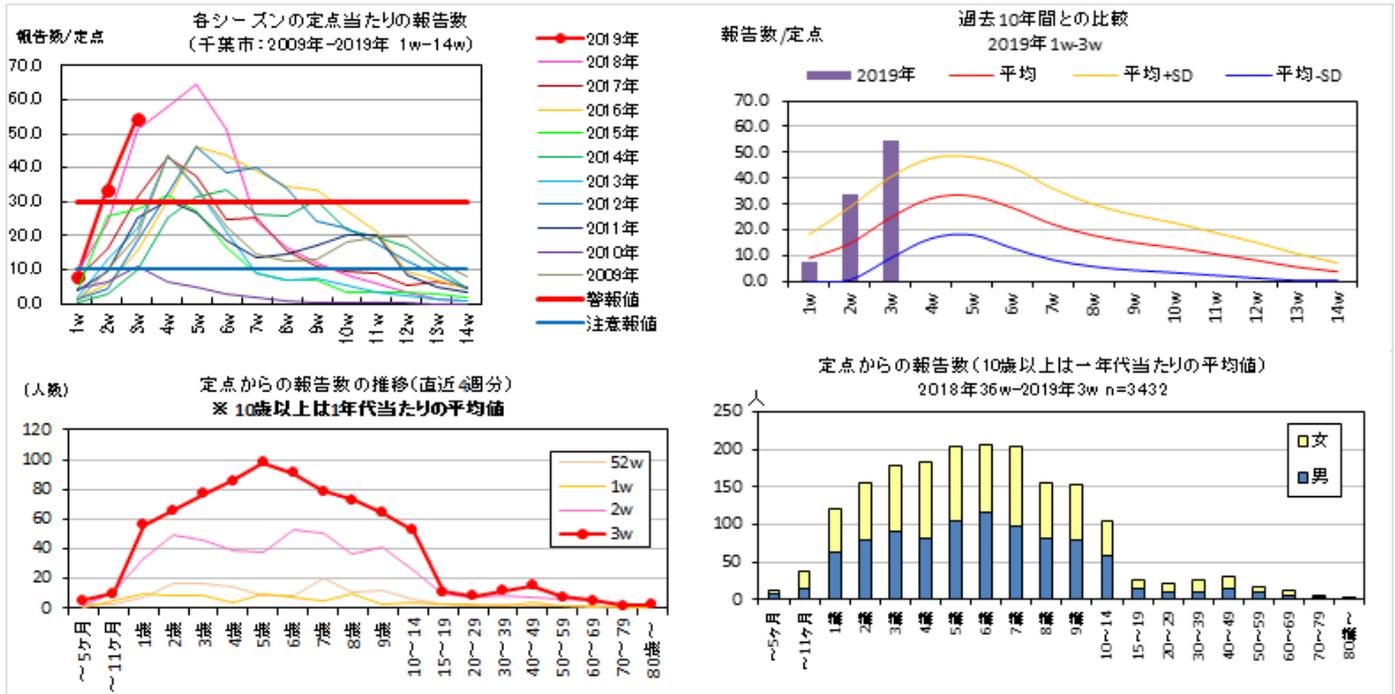
<伝染性紅斑>前週より減少し1.22となったが、過去10年の同時期と比べると最多のまま。

<インフルエンザ>前週より大幅に増加し54.46となった。流行発生警報開始基準値を上回ったままで過去10年の同時期と比べると最多のまま。

### ■ トピック ■

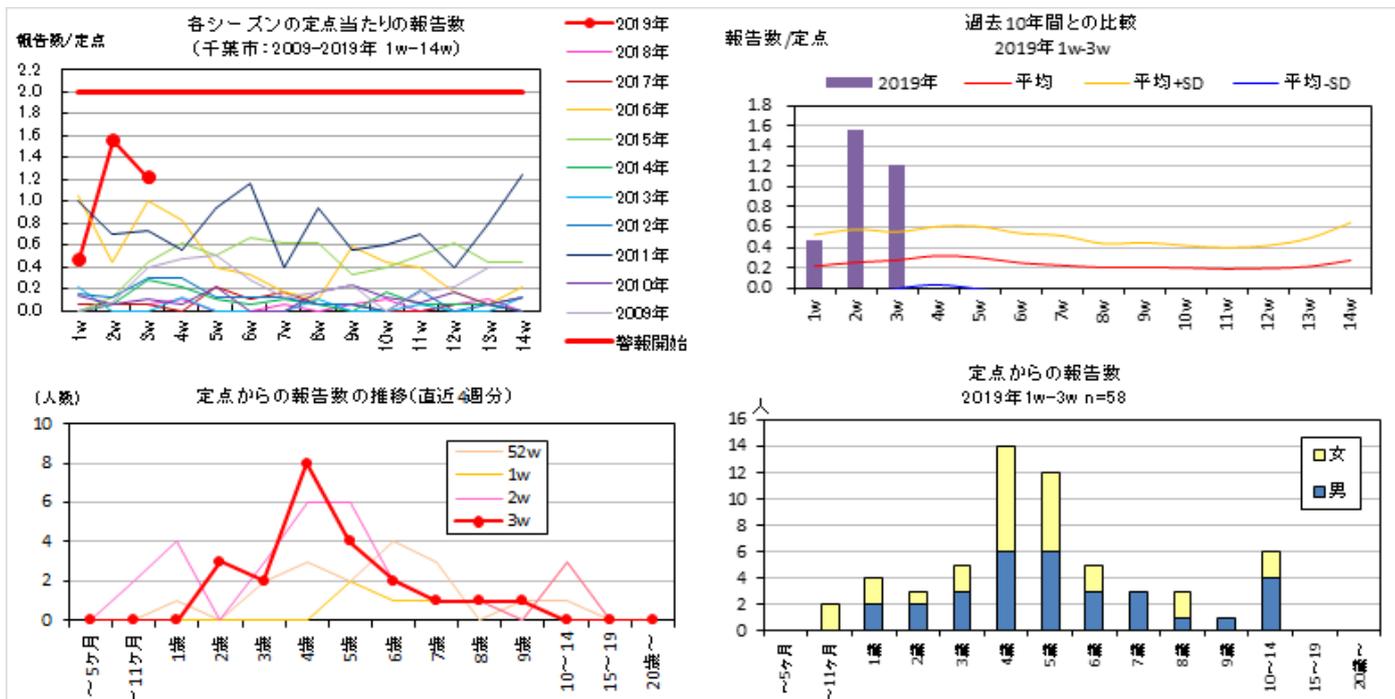
#### <インフルエンザ>

全国レベルの第2週は、流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回り、過去10年の同時期と比べると最多となりました。都道府県別では愛知県、熊本県、岐阜県の順で多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第3週は前週より大幅に増加し54.46となり、流行発生警報開始基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると、過去10年で最も多かった昨年を上回り最多のままとなっています。区別の発生状況は全区で流行発生警報開始基準値を上回っており、中央区(75.2/定点)で最多で、同区の40歳代で最も多く、一年代あたりでは5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第3週までの累積報告数は3432件で、性別では男性が49.3%(1691名)、女性が50.7%(1741名)で、年齢階級別では6歳(6.03%:207名)、7歳(6.00%:205名)、5歳(5.9%:204名)の順で多く、20歳未満は全体の65.9%、10歳未満は全体の46.9%となっています。



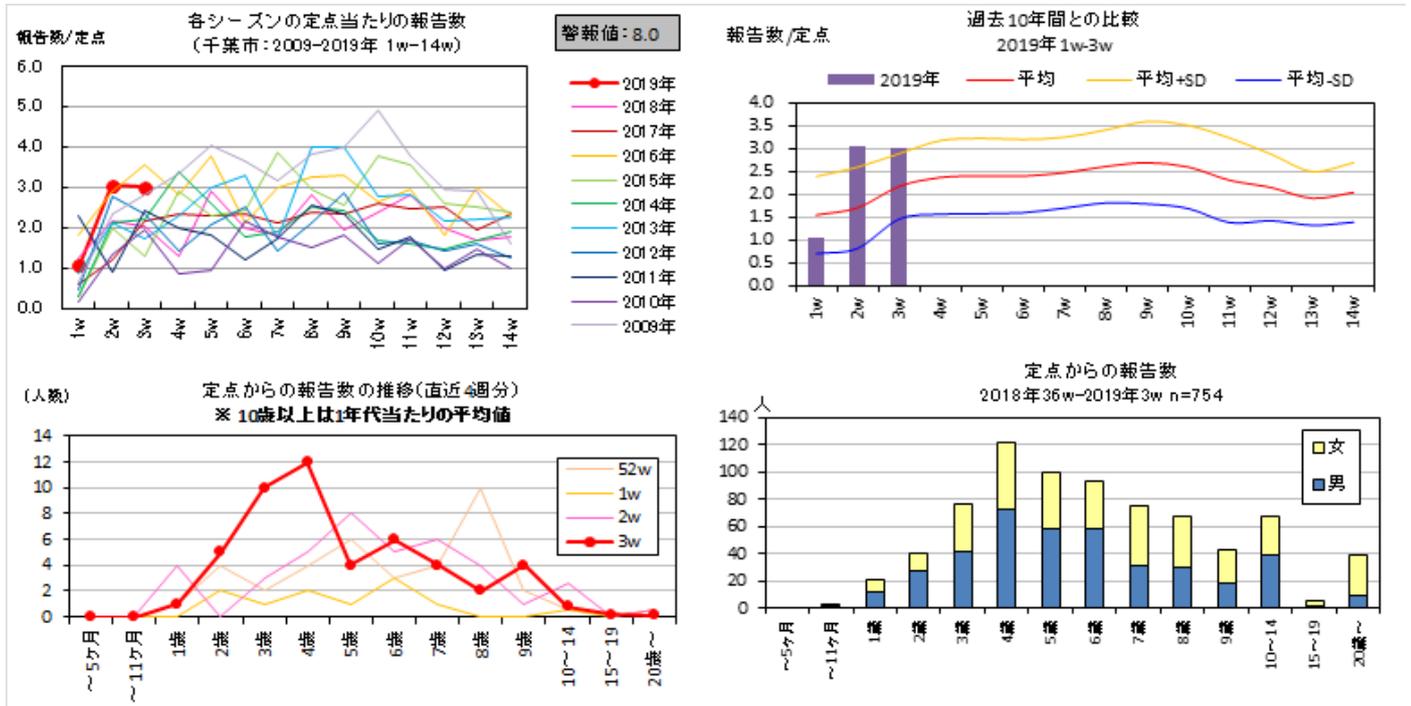
#### <伝染性紅斑>

全国レベルの第2週は、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、北海道、新潟県、山形県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第3週は前週から減少し1.22となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、稲毛区(2.33/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の4歳で多く発生報告がありました。2019年第1週から第3週までの累積報告数は58件で、性別では男性が53.4%(31名)、女性が46.6%(27名)となっており、年齢階級別では4歳(24.1%:14名)、5歳(20.7%:12名)、10歳代前半(10.3%:6名)の順で多くなっています。



## <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第2週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、石川県、鳥取県、山形県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の第3週は前週から減少し3.00となりましたが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区(9.5/定点)で流行発生警報開始基準値(8.0/定点)を上回り最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第3週までの累積報告数は754件で、性別では男性が53.2%(401名)、女性が46.8%(353名)となっており、年齢階級別では4歳(16.2%:122名)、5歳(13.3%:100名)、6歳(12.5%:94名)の順で多くなっています。



## <風しん>

全国レベルの第2週は139件で、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県の順で多く報告されています。千葉市は第3週に2件の発生届があり、累計で7件となっています。性別では男性が57.1%(4名)、女性が42.9%(3名)となっており、年齢階級別では30歳代(71.4%:5名)が最も多くなっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の85%を上回っています。

